

水質検査結果報告書

採水日時： 2022年5月23日 (月)

検査担当者名： 大宮

場所： 大阪城公園 東外堀

検査場所 TECTA 中野LABO

地点 Number	採水時間 Water sampling time	天候 the weather	降水量 Precipitation amount	水温 Water temperature	気温 Temperature	油膜 Oil film	アオコ water bloom	臭気	外観 appearance	透明度
			mm	°C	°C			Odor	色	transparency
①	13:35	sunny	2.0	24.6	26.5	none	none	Odor less	colorless	1.3
②	13:21	sunny	2.0	25.1	26.5	none	none	Odor less	colorless	1.3
③	13:08	sunny	2.0	25.1	26.5	none	none	Odor less	colorless	1.3

地点 Number	細菌検査			クロロフィルa	フィコシアニン	COD	DO	全窒素	全リン
	大腸菌	腸球菌	pH	chlorophyll a	phycocyanin	Chemical Oxygen Demand	Dissolved Oxygen	total nitrogen	total phosphorus
	E.Coli	Enterococcus	potential of Hydrogn	μg/L	μg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
	fixed	fixed	-	μg/L	μg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
①	1	1	8.2	9.69	0.09	9.2	10.58	0.3	0.43
②	<1	1	8.1	2.04	0.47	7.7	10.72	0.2	0.29
③	1	1	8.2	3.16	0.38	9.6	11.95	0.4	0.47

採水地点情報



コメント： WT基準は以下であるが、全て基準内である。
 クロロフィル濃度・フィコシアニン濃度においてもレベル0相当でありアオコの発生は認められず、見た目上のアオコ発生も認められない。
 参考：WT基準
 ・PH値 6~9
 ・大腸菌の濃度が(500cfu/100ml)以下であること
 ・腸球菌の濃度が(200cfu/100ml)以下であること
 ・スカムが観測されアオコの急激な増殖が予想される場合、また水が強く緑色に変色し、濁りがあり透明度が0.5m未満である場合、藍藻検査を実施しなければならない。(藍藻類(シアノバクテリア)が100,000細胞/mlを超えないこと。)

※1 フィコシアニン
 アオコの原因となる植物プランクトン(藍藻類)に含まれている色素です。
 フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。
 ※2 アオコレベル
 アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標(参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所HP:<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>)。
 アオコレベル1で50 μg/L程度
 アオコレベル2で150 μg/L程度
 アオコレベル3で750 μg/L程度
 アオコレベル4で2300 μg/L程度
 アオコレベル5で32000 μg/L程度
 (小日向ら, 2012)